

【治安情報】 リオデジャネイロ

当地では外国人観光客を狙った犯罪が昼夜を問わず発生しています。安全には特に留意して、楽しい旅行にしてください。

リオデジャネイロでの緊急連絡先

・ リオデジャネイロ総領事館 +55-21-3461-9595

(夜間・休日も対応有)

・ ツーリストポリス (英語可) +55-21-2511-5122

→旅行者専門の警察で、被害に遭ったらこちらで届け出をすると登録証明書を発行してくれます。

★最近のリオでの邦人被害の傾向★

【1】コパカバーナ海岸またはその周辺路上、週末・夜間のセントロ地区の路上で邦人観光客がひったくり、強盗被害に遭う事件が多発しています。

【2】国際空港や観光地の銀行ATMを使用した際にカードの磁気情報が盗まれ、偽造カードによって口座の現金を引き出される事件が発生しています。

防衛策

【1】移動はタクシーの利用をお勧めします。また徒歩で行動する場合はグループで歩き、周囲への警戒を怠らないで下さい。

【2】アクセサリ等は身に付けず、手荷物は最小限度にし、カメラ等はカバンの中に入れて下さい。

【3】海水浴の際、海岸に荷物を置いたまま遊泳しないで下さい。

【4】万一強盗に遭ったら絶対に抵抗しないで下さい。

【5】以下の治安情報詳細に目を通して、犯罪者に襲われたときにどのように行動するか想定してください。

治安情報詳細 (リオ)

リオ市内の数多くのスラム街(ファベラと呼ばれる低所得者層の集団密集地)では銃器や薬物が蔓延し、治安は憂慮すべき状況にあります。特に殺人、強盗事件が多発し、バス車内の強盗、路上強盗、住居侵入強盗、流れ弾による被害が多発していますので、自分

【治安情報】 リオデジャネイロ

が被害に遭うかもしれないという自覚と警戒心を持ってください。リオでの犯罪は、金品強奪目的の犯罪がほとんどですので、つとめて冷静に対応し、相手に抵抗する素振りを見せないことが重要です。以下の注意事項を参考にして、十分注意してください。

■空港

・リオ国際空港では、置き引きが多発しています。空港チェックインカウンターや、タクシーやバスを待ち中に、荷物から目を離した隙に足元のカバンが盗まれたり、買い物中のキャリーの上からバッグを持ち去られる被害が発生しています。

・空港内等で、見ず知らずの人から荷物等を預からないでください。麻薬密売人が麻薬を国外に持ち出すために他人を利用することがあります。

・空港に設置された銀行ATMでカードの磁気情報を盗まれる事例が頻発しています。空港ではATMを使用せず、当面必要な現金はドル又はユーロを持参して両替することをお薦めします。

■ホテル

・フロントやロビーで、キャリーの上のバックを盗まれたり、レストランでバッグを椅子の背もたれに掛けていて置き引きされる被害が発生しています。一流ホテルといえども安心はできませんので、荷物から目を離さないでください。

・旅先で知り合った人をホテルの自室に招き、金品等を盗まれる事件が発生しています。睡眠薬などを飲み物に混入される場合もあります。

・貴重品等（旅券を含む）は、室内のセーフティボックスを利用するか、フロントに預ける等して管理してください。

■外出時

・ホテル等の周辺には観光客を狙った強盗やひったくり犯が徘徊していることがあるので、出かける際に不審者がいないか周辺を観察してください。歩行中に時々背後を振り返ることは、犯罪者に対して警戒心を持っていることを示すことにつながり、有効です。

不審者に気づいた場合には近くの商店などに一時的に身を寄せてください。

・必要以上の現金や旅券等の貴重品は持ち歩かないでください（外出中は旅券のコピーを持って歩くと安心です）。現金やカードは、被害に遭った場合を想定して、分散して所持しましょう。

・リオ市南部地区は観光地が集中し、比較的治安が良好ですが、外国人旅行者をターゲットにした犯罪グループが徘徊しているので注意が必要です。特にコパカバーナ海岸やイパネマ海岸の波打ち際は、大通りから距離があり死角となっているため、強盗や窃盗の被害が頻発しています。早朝や夕方、夜間は立ち入らないでください。

・可能な限りグループで行動してください。また、観光名所や海岸通りから山手に入った

【治安情報】 リオデジャネイロ

通り等、人通りの少ない通りには足を踏み入れないでください。

・外出の際、カメラや携帯電話はなるべく人目に付かないように携帯してください。写真撮影は周囲に不審者がいないことを確認した上で素早く行い、撮影後はカメラをしまってください。ストラップを首に掛けたり手首に引っ掛けたりしていると、強引に引っぱられて転倒する危険性があるので十分注意してください。ビデオ撮影は安全が確保された場所以外では行わない方が無難です。スマートフォンの取扱いにも注意が必要です。

・人通りの多い場所・時間帯でも常に注意が必要です。

被害に遭ってしまった場合

(1) 抵抗しないことが大原則。

路上で強盗に遭ったり、ホテルの部屋に侵入されたりした場合には、相手が子供であっても絶対に抵抗しないでください。犯罪者は必ず銃かナイフを持っている、または他に仲間がいることを想定して対応してください。

(2) 犯人を刺激しない。凝視しない。

犯人は興奮しているので、大声を出したり、逃げる素振りを見せることは危険です。銃器が氾濫しているリオでは、犯人も命がけであり、被害者も何らかの武器を持っている可能性があると考えるので、相手に無断で上着の内ポケットに手を入れたりすると、銃を取り出そうとしていると勘違いされて発砲されることがあります。